

HoRC-MSA ニュースレター

日本神経学会学術大会でのHoRC-MSA発表

2021年5月19日から22日に京都で開催された第62回日本神経学会学術大会において、オンラインでしたが、HoRC-MSA関係者も参加しました。松島はHoRC-MSAで得られたデータをもとにポスターで発表を行いました。

この発表の中では、右論文の内容の他、小脳性運動失調優位型(MSA-C)よりもパーキンソン症状優位型(MSA-P)の方が日常生活動作の低下があり、薬剤使用量も多いことを示しています。

また、MSA関連のシンポジウム「Increasing importance of autonomic neuroscience in multiple system atrophy (MSAにおける自律神経科学の重要性の高まり)」でも発表を行いました。MSAを長期間にわたって大規模に追跡した研究データは世界的にも貴重であり、「Real-world data of autonomic dysfunction in Hokkaido Rare disease Consortium for MSA (HoRC-MSA) study」と題した報告は、海外の参加者からも注目されました。このシンポジウムでは、MSAにおける残尿測定の有用性、MSAの自律神経障害に関わる脳脊髄液や画像検査についての検討、睡眠障害と自律神経障害の関係性などについても話題となりました。

論文が掲載されました！

2014年の登録開始から5年以上が経過し、蓄積されたデータをもとに作成した論文が2021年2月にBMJ-Open誌に掲載されました。本研究はアジアで初めての大規模な多系統萎縮症に関わる疫学的な研究です。薬剤使用状況を含む解析のほか、MSA-CからMSA-Pへの変化がある一方で、その逆はないことなどを提示しています。論文の出版に際して、これまでご協力をいただいたすべてのみなさまに感謝申し上げます。



日本神経学会学術大会でのその他のトピック

HoRC-MSAに関する発表以外にも、多系統萎縮症に関連する発表は多くありました。シンポジウムやホットトピックにおける主な発表として、北海道大学脳神経内科も協力している多系統萎縮症に対するコエンザイムQ10 (CoQ10) の治験の進捗状況に関する発表(東京大学 三井先生)、多系統萎縮症の排尿障害に関する発表(東邦大学 榊原先生)、臨床調査個人票データのAI(人工知能)を用いた解析に関する発表(東海大学 金谷先生)がありました。

CoQ10の治験の発表では、還元型CoQ10 1,500mg/日又はプラセボを合計で120例に投与する試験デザインの多施設共同プラセボ対照二重盲検比較試験の進捗として、全参加者の評価が完了し、現在は結果を解析中であることが報告されました。排尿障害に関する発表では、最近の知見に基づき、多系統萎縮症で生じる排尿障害の特徴が紹介されるとともに、カテーテルを用いた間欠的自己導尿と脳神経内科医と泌尿器科医の連携の重要性が説明されました。臨床調査個人票データをAIを用いて解析した発表では、多系統萎縮症の臨床症状や画像所見を用いて、命や健康に関わる因子を検討した内容が報告されていました。また、これらの発表以外にも、画像診断等についてのポスター発表が複数ありました。



多系統萎縮症の嚥下障害について

多系統萎縮症はパーキンソニズム、運動失調、自律神経障害など様々な症状を呈する疾患ですが、嚥下障害は、予後に関わる重要な症状です。この嚥下障害について、日米欧の研究者が集まり作成した国際コンセンサス基準に関する論文が発表されました。この論文では、文献の系統的レビューに基づき、多系統萎縮症において嚥下障害は頻繁に認められる症状であり、誤嚥性肺炎を引き起こすことにより予後に影響する重要な問題であることが改めて示されています。また、診断および治療についても情報が整理されており、嚥下障害を疑う症状、嚥下障害を疑った場合に実施する検査、嚥下障害への対処法などがエビデンスに基づき整理されています。今回の論文の著者の一人である小澤鉄太郎先生が、この論文の内容をわかりやすく紹介されておりますので、以下のURLから是非ご覧になってみてください。



1. 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院神経内科 小澤鉄太郎先生による紹介
<https://www.neurology-bri.jp/news/3560/> QRコードはこちら - - - →
2. 多系統萎縮症の嚥下障害についての国際コンセンサス基準に関する論文
[https://www.prd-journal.com/article/S1353-8020\(21\)00120-6/fulltext](https://www.prd-journal.com/article/S1353-8020(21)00120-6/fulltext)



調査への御回答のお願い

HoRC-MSAへの参加希望の「意向調査」の返信をいただいた方には、研究説明同意文書とスクリーニング調査票をお送りしています。「同意書」の提出のない場合は、参加する方の承諾が得られていないということになりますので、調査研究を進めていくことができません。HoRC-MSAに参加をご希望の方で、もし同意書が未提出でお手元にある方は、返信用封筒に入れて事務局へお送りください。

登録済みの方には、適宜所定の調査票をお送りする予定としています。こちらにもご協力をお願いします。

時々、転居などのためにこちらから発送した書類が届かずに返送されてくる場合があります。住所変更、通院先が変わったとき、お亡くなりになられた時など、何かありましたら、同封の「変更用紙」にてお知らせをよろしくをお願いします。



HoRC-MSA事務局

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野
神経内科学教室（北海道大学病院脳神経内科）

TEL 011-706-6028 FAX 011-700-5356

URL <http://neurology.med.hokudai.ac.jp/~neuro-w/horc-msa/>



質問・ご意見等募集

HoRC-MSAでは、みなさまのご意見やご質問を募集しています。お寄せいただいた内容は、個人情報に留意しつつ、HoRC-MSAの取り組み・運営の参考にさせていただきます。

〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学大学院医学研究院神経病態学講座
神経内科学教室 HoRC-MSA事務局

編集後記

新型コロナウイルスにより学術大会の運営も大きく様変わりしてきており、今回の学術大会も多くの発表者・参加者がオンラインのみでの発表・参加でした。学術大会での対面での交流ができないのは物足りない部分もありますが、オンラインでの発表・参加で時間・場所に関する制約が小さくなることのメリットは大きいと感じました。（HoRC-MSA事務局）